

資料1 第3回気仙沼市病院事業審議会における各委員のご意見



【第3回気仙沼市病院事業審議会における各委員のご意見要旨】

委員	要旨
森田副会長	• この問題は非常に複雑で、皆が良しとする解決は困難である • 当地域は、開業医、市立病院、本吉病院の誰か一人抜けても大変な状況。それだけの医師不足の中で、どの医師も本当に頑張っているというのが実感である • 後継者の問題については、全国的に、後継者のいる医院は2割くらいと言われており、8割の医院は閉院もしくは承継、譲渡していくことになる。総合診療医を育成することで、勤務医に、減少していく開業医が現在担っている診療を在宅も含めた総合診療という形で託したいというのが、総合診療医育成の意図する目的の一つだと思うが、現実的には長い経験が必要なのでなかなか難しいと感じている • 医師の働き方改革は、見ようによっては、長年医師を含めた医療従事者の犠牲の上に、日本の医療体制が成り立ってきたことを示しており、医療従事者の命にかかわることを蔑ろに進んでは元も子もない • 理想的なことは出来ない。パターン②（入院機能集約・外来機能を本吉に残す）がベターだと思う • 再編統合した時、地区住民の通院の不便さについては、タクシー代を補助する自治体もあると聞く。どういう形になるかは別として、市として一定程度の補助も検討課題ではないかと思う • 本吉病院が実践する全人的なケアの良さは、市立病院と一体的になることで、良い意味で影響を及ぼすと思われるので、縮小という暗いイメージではなく、前向きに見られるのではないか
木村委員	• 事業を運営する中で大事なことは、コストとリクルートだと思っている • 私自身、介護事業所を運営しており、有資格者の確保が非常に困難になっている中で、統廃合は然るべきものとする • 例えば、パターン③では10年間で約35億円の削減が見込まれる。そうすると、現体制を維持するには、本吉地域以外のコンセンサスも必要ではないかと思う

【第3回気仙沼市病院事業審議会における各委員のご意見要旨】

委員	要旨
大森委員	・ 2 病院の入外患者数から、本吉病院は本吉地域の人にとって大事な病院であることがわかる ・ 自身が運営する助産院を利用する階上地区や本吉地域、南三陸町のお母さん方から、本吉病院は小児科としてかかりつけ医になっていると伺っており、地域住民にとって、心のよりどころになっていると感じている ・ 予防接種なども働いている母親の立場を考えると、保育所や学校が終わってから、市内の小児科まで行くのは大変になる。近くにあるということが安心感につながっている ・ 通院の送迎をしている家族も、市立病院までの送迎が大変になり、送迎される方もお願いしにくくなって受診しづらくなってしまう ・ 本吉病院の入院機能は市立病院に再編されたとしても、外来機能は本吉地域に残ってほしいと考える
吹谷委員	・ 急激な人口減少と少子高齢化、就業人口の減少によって、市内の病院再編は避けられないと考えるが、機能が再編されることで医療へのアクセスが困難になる人も出てくるかもしれない ・ 将来的な市立病院のあり方については、市立病院との医療連携により本吉地域外からも回復期患者が本吉病院を受診していることや、人口減少に伴う医療需要の減少を加味した上で、民間病院の閉院も踏まえながら、回復期病床の確保等、今後担う医療機能を公立病院経営強化プランの中で明確に示していく必要があると思う
野上委員	・ 今回のコロナのような新興感染症が発生した場合、診てくれる医療機関の確保が非常に重要であるが、入院・外来の全てを市立病院が担うというのは、市立病院の役割・機能を考えても難しいと思う ・ 開業医も発熱外来を実施しているが、最初の走り出しはやはり公立病院が大きな役割を果たした ・ 本吉病院の全ての機能を市立病院に統合することは厳しいと考える
赤川委員	・ 市として重要なのは、来年、再来年ということではなく、もっと先を見据えて、この地域の医療をどのようにして守っていくかということである ・ 今の本吉病院の医師の勤務状況では、令和 6 年度からの働き方改革に対応できない。医療スタッフは募集しても、集まらず、働き手は将来的にもっと少なくなっていくと見込まれており、かなり危惧している ・ あらゆる現状を踏まえて、医療提供体制を選択していかなければならない。選択にあたり、本吉病院、市立病院を利用している人に対して、不安を与えないよう、不安があるのであれば、それを払しょくするような進め方が非常に重要だと思う ・ 各委員の話を聞くと、やはり、本吉病院の入院機能を維持することはかなり厳しいと感じた

【第3回気仙沼市病院事業審議会における各委員のご意見要旨】

委員	要旨
横田委員	・ 近い将来、2つの病院を維持することは困難になる。そうなる前に、人の命を守る医療を持続可能なものにするため、危機管理の観点において医療再編を捉えることが今回の議論と理解している ・ 本吉地域の医療水準をこれまで通り堅持すること、高齢化を背景にした医療ニーズの変化に対応することが重要である ・ 多病を抱えながら入退院を繰り返す高齢者が増えており、総合的に診る総合診療の必要性が増していることについて、どのように市立病院が対応するかを考えなければならない。本吉病院では、日常的に総合診療を行っており、そこに今後の医療ニーズに対応するヒントがあると思っている ・ パターン②（入院機能集約・外来機能を本吉に残す）の場合、本吉地区住民・気仙沼市民にとってメリットも大きい。今回の医療再編は、総合診療や在宅医療を本吉地域から気仙沼市全域に広げるためにも必要であり、2病院が一体的になることなので、本吉病院の規模縮小ではなく、むしろ業務内容の拡大だと考える
齊藤委員	・ 本吉病院は全国国民健康保険診療施設協議会に加入しており、この協議会の会員は主に僻地の医療を担っている国保診療施設。昭和の時期は千数百施設があった。平成22年には866、令和4年には796と少なくなっており、これが全国の医療機関がなくなっている現実である。要因は、財政面以上に後継者不足がある。人が続かないと医療は続かない。後継者不足で医療機関がなくなることは避けなければならない ・ 総合診療医の育成は本吉病院だけでは出来ない。市立病院との連携は良い育成環境が作れると考える ・ 本吉病院も市立の病院であることから、本吉地域のみならず市全体を見る視点が大切であり、総合診療を気仙沼市内全域に広げていく良い機会と捉えている ・ 個人的には、パターン②（入院機能集約・外来機能を本吉に残す）だと思う。パターン②になると縮小といわれるが、市立病院の中に50床ほどの回復期病棟ができるので、むしろ拡充すると考えている